

JENESYS 日本・インドネシア外交官・地方行政官交流 II（招へい）の記録

1. プログラム概要

【目的】インドネシアの行政官が来日後に日本の政治や行政、文化に関する視察や意見交換を通じて、対日理解を深めてもらうことを主目的として実施しました。

【参加者】インドネシアの外交官、地方行政官 計7名

（内訳）アフリカ担当局外交官1名、教育研修センター 若手外交官1名、領事関係 外交官1名、人事部外務員1名、パプア州行政官3名

【訪問地】

- プレプログラム（オンライン事前学習）：千葉県7名
- 招へいプログラム：東京都7名、北海道7名

【日程】

このプログラムは、以下のプログラムと一部合同で実施しました。

- ・ JENESYS2023 日本・インドネシア高校生等交流 ～日本の文化・技術体験～（招へい）
- ・ JENESYS 日本・インドネシア平和構築交流（大学生招へい）
- ・ JENESYS 日本・インドネシア若手ジャーナリスト交流（招へい）

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

1月15日（月曜日） 【出発前オリエンテーション】

挨拶：在インドネシア日本国大使館 二等書記官 石田 智彦 氏

【日本理解講義】「日本の魅力」

講師：千葉大学国際未来教育基幹 教授 織田 雄一 氏

来日までの指定期間 【課題学習（動画配信）】「南三陸町からのメッセージ」「日本文化理解（京都）」「日本語」「日本 ASEAN50年の歩み」「日本と国連」

■ 招へいプログラム：

1月23日（火曜日） 成田国際空港より入国

【オリエンテーション】

【表敬訪問】外務省 南部アジア部 南東アジア第二課 主査 横山 大樹 氏

1月24日（水曜日） 【視察】浅草

東京都から北海道へ移動

1月25日（木曜日） 【表敬訪問】滝川市副市長 中島 純一 氏

【テーマ関連視察・意見交換】滝川市役所

- 1月26日（金曜日） 【視察】道の駅たきかわ
【テーマ関連視察】北海道議会
【テーマ関連視察】北海道庁
- 1月27日（土曜日） 【日本文化体験】万華鏡づくり等
【視察】滝川国際交流協会
【ホームビジット】北海道滝川市
- 1月28日（日曜日） 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
北海道から東京都へ移動
- 1月29日（月曜日） 【視察】深川江戸資料館
【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
- 1月30日（火曜日） 成田国際空港より出国

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）:

	
<p>1月15日【出発前オリエンテーション】 挨拶の様子</p>	<p>1月15日【日本理解講義】「日本の魅力」</p>

招へいプログラム:

	
<p>1月23日【オリエンテーション】</p>	<p>1月23日【表敬訪問】外務省 南部アジア部 南東アジア第二課 主査 横山 大樹 氏</p>



1月24日【視察】浅草



1月25日【表敬訪問】
滝川市副市長 中島 純一 氏



1月25日【テーマ関連視察・意見交換】
滝川市役所



1月26日【テーマ関連視察】北海道議会



1月26日【テーマ関連視察】北海道庁



1月27日【日本文化体験】万華鏡づくり等



1月27日【視察】滝川国際交流協会



1月27日【ホームビジット】北海道滝川市

	
<p>1月29日【視察】深川江戸資料館</p>	<p>1月29日【報告会】 訪日成果・帰国後の活動計画発表</p>
	<p>1月29日【報告会】記念撮影</p>

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 外交官（アフリカ担当局）

滝川市が、姉妹都市交流を通じて市民が国際的な視野を持つことを奨励していることを学びました。同時に市民にも国際交流プログラムに積極的に参加したい意欲があります。また、人口流出を抑えるため、福祉の充実に重点を置いた政策を打ち出し、より多くの人に雇用の機会を創出していました。

◆ 外交官（人事部外務員）

日本の文化やおもてなしの心を直接学ぶことができました。

また、ホームビジットプログラムは、言葉の壁はありましたが、直接交流することができてとても充実しました。また、ホストファミリーが私たちが歓迎してくれたことが一番心に残っています。特に、日本の伝統的なスポーツのひとつである剣道の手ほどきを受けたときは、本当にうれしかったです。

◆ 地方行政官（パプア州行政官）

私たちは家庭でも職場でも、（日本で学んだ）非常に高いレベルの規律とルールを守る姿勢を見倣う必要があります。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

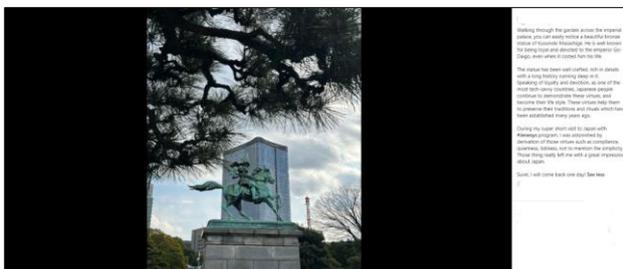
◆ 視察先

自国を良くしたいという思いを強く感じました。その思いを受け、受入れ期間はより効率的に日本の文化や慣習を学ぶ機会にしてほしいと思いました。

◆ ホストファミリー

参加者に防寒具を貸し、小さい子どもと一緒に雪遊びをしました。訪日団は雪を初めて見たようで、大変喜んでいました。また、天候にも恵まれてよかったです。また、昔ホームステイ受け入れしていた頃、好評だった100円均一のお店にもお連れしました。大抵のものが全て100円なので、日本風の置物や、食品、お土産などたくさん喜んで購入されていました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）

	
<p>2024年1月24日（Facebook）</p> <p>皇居の向こう側の庭園を歩いていると、美しい楠木正成の銅像がすぐに目に留まります。彼は、たとえ命を犠牲にしたとしても、後醍醐天皇に忠誠を尽くしたことでよく知られています。</p> <p>この像は細部まで精巧に作られており、長い歴史が深く刻まれています。日本は最もテクノロジーに精通した国でありながら、忠誠心と献身性という美德を持ち続けて、日本人のライフスタイルとなっています。これらの美德は、古くから定着している伝統や儀式を守ることに寄与しています。</p> <p>JENESYS プログラムでの短期間の訪日中、私はその素朴さは言うまでもなく、コンプライアンス、静寂、整頓などの美德が日本には至る所にあることに驚きました。私は、日本を心から素晴らしい印象を持ちました。</p> <p>もちろん、いつか戻ってきます。</p>	<p>2024年1月25日（WhatsApp）</p> <p>日本の北海道滝川市において記念品を市長に贈呈しました。（副市長が対応してくださいました。）</p>

	<p>然などのポテンシャルを活かしています。一方、スピオリ県は観光地としてのポテンシャル、豊かな漁業資源がありながら活かせていません。</p> <p>【アクション・プラン】</p> <p>帰国後 3 か月以内に実施します。参加者は県知事及び上層部はじめ周囲に日本の街のきれいさ、技術、国民性などについて直接プレゼンテーションを行います。また、市民には、SNS やローカルテレビ等のメディアを活用して周知します。</p> <p>■ 周知内容及び活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守、ルール厳守 ・環境衛生向上。「金曜朝の衛生向上活動」を行います。 ・行政組織などの社会改善に取り組む活動を行います。
--	--

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）